

# 春学期 父母懇談会

春学期には京都以外の全国7ヶ所で父母懇談会を開催しました。

地方会場では、京都までなかなか足をお運びいただけない皆様と交流を深めることを目的に、教員によるミニ講義や全体懇談、そして茶話会を行いました。

参加者からは、「近くの方と情報交換や交流ができて良かった」「同じ学年の方とお話しでき安心した」などの感想が聞かれました。

今号では、各地の出席者数の報告とともに、講演内容をご紹介します。



開催地	日程	場所	出席者数	学部別内訳		都道府県別内訳
				文学部	社会学部	
松山	6月16日(土)	ホテルマイステイズ松山	6	4	2	愛媛3、香川1、高知1、広島1
名古屋	6月23日(土)	名鉄グランドホテル	69	44	25	愛知50、岐阜7、三重6、静岡3、長野1、京都1、熊本1
広島	7月1日(日)	広島グランドインテリジェントホテル	30	21	9	広島25、島根1、山口4
京都	7月7日(土)	同志社大学	開催中止			
東京	7月14日(土)	同志社大学 東京サテライト・キャンパス	52	31	21	東京18、埼玉4、神奈川11、千葉9、茨城2、新潟1、長野1、青森1、福島2、兵庫3
米子	7月21日(土)	米子ワシントンホテルプラザ	6	5	1	鳥取5、島根1
金沢	8月4日(土)	ANAクラウンプラザホテル金沢	23	16	7	石川13、富山9、福井1
福岡	9月8日(土)	JR博多シティ会議室	37	21	16	福岡27、佐賀2、大分3、熊本2、広島2、京都1
合計			223	142	81	

開催地	日程	講演者		講演タイトル
松山	6月16日(土)	下楠 昌哉 先生	文学部英文学科	「英語はどう書かれなくてはならないか」
名古屋	6月23日(土)	上野谷 加代子 先生	社会学部社会福祉学科	「たすけ上手・たすけられ上手の地域づくり、ひとづくり」
広島	7月1日(日)	大愛 崇晴 先生	文学部美学芸術学科	「『音楽(music)』の定義を考える」
開催中止				
京都	7月7日(土)	沖田 行司 先生	社会学部教育文化学科	「同志社大学建学の精神と新島襄」
		笹岡 隆甫 氏	華道「未生流笹岡」家元	「いけばな～2020年それ以降に向けて～」
東京	7月14日(土)	岩坪 健 先生	文学部国文学科	「源氏物語と冷泉家」
米子	7月21日(土)	竹内 長武 先生	社会学部メディア学科	「手塚治虫マンガの魅力」
金沢	8月4日(土)	尾嶋 史章 先生	社会学部社会学科	「高校生たちのゆくえ —社会・生活意識からみた30年—」
福岡	9月8日(土)	石田 光男 先生	社会学部産業関係学科	「産業関係学とはどんな学問か」

# 地方父母懇談会

■松山会場 2018年6月16日(土)

ホテルマイステイズ松山

「英語はどう書かなくてはならないか」

文学部英文学科教授

下楠 昌哉

英文学科における研究対象は大きく分けて英米文学・文化、それから英語学・英語教育学の二つの学問領域に分けられます。どちらを選ぶにしても必ず英語力が必要となりますので、英文学科は英語力を向上させることに特化したカリキュラムを組んでいます。本日の話は英文学科の英語の授業を前提としてはいますが、留学や仕事で英語の報告書を書く必要のある人ならば必ず習得しておかなくてはならない、基礎中の基礎の話です。

言語を習得することは、例えば外国語であっても人間の基本的能力です。泳ぐ、走るといった能力と一緒に使う頻度が多いほどある程度は必ず上達します。しかし、勉強しなければどうしても身につかないものもあります。例えば、文法などは英語を母語とする人でも勉強しなければ身につかない最たるものです。

本日の配布資料は、英文学科の1・2年生のための英作文の教科書に最初に出てくるモデル・エッセイです。このエッセイ(essay)、日本語のエッセイとは意味合いが異なり、複数のパラグラフ(段落)で構成された論説文とお考えください(がいわんとしていることを理解しようとした場合、まず見るべきところはどこでしょうか？英語のエッセイにとって最も大切な文、thesis statementは、たいてい最初のパラ



グラフの最後にあります。

では、エッセイの最後の conclusion にあたるパラグラフ、日本語を母語とする人にとっては一番大事に思うところでは何を行うのでしょうか。まずは、thesis statement の再確認や全体の議論の総括です。次はエッセイの目的によっては、読者の印象を強くするための final comment です。 conclusion には「新しい情報を入れない」のが原則です。エッセイ全体の中では introduction よりも需要度が低いパラグラフです。

エッセイではまず introduction でエッセイで扱うトピックについて紹介します。そして introduction のパラグラフの最後に、そのエッセイで言いたいことを thesis statement として示します。そのあと、それにぶれないようにボディ・パラグラフを展開していきます。各ボディ・パラグラフの最初にはトピック・センテンスがあり、パラグラフ内でそれに続く文にはその内容をサポートするものが並んでいます。そして最後に conclusion が来るのです。

英語のエッセイを書くときには、英語を母語とする教養ある読み手はこの形を期待していることを忘れないようにしてはなりません。この形からずれてしまうと、どんなに英語がうまく書いていても、留学先で高い評価が得られなかったり、単純に読むのを止められてしまうことが現実として待っています。すなわち、英語である程度以上の長さのものを書くこととするならば、論の流れに関して思考のモードチェンジが必要なのです。それは、異文化の人の思考様式をヴァーチャルに経験できるといいうことです。

個人的にはこの英語のエッセイの書き方をマスターすれば、非常に有効に働く場面が多々あるうかと思っております。まず、口頭で発表するときです。私は研究発表を聞く機会がよくあります。英語や日本語どちらもありますが、やはり口頭発表であれば、「この発表はこのような題材についてです。この発表はこういう結論になります」と最初

に明確に伝えるべきです。日本語の発表であっても、英語のエッセイ的な情報を出すことで非常に effective なものになるのではないかと思います。もう一つ、学生たちにとって役に立つところが就職活動です。ウェブ入力のエントリーシートに志望動機などを打ち込んでいきますが、出だしのところで読み手に何かあるぞと思わせないと、おそらくちゃんと全部は読んでもらえないと思います。そう考えると、英語のエッセイ的な情報の出し方に慣れていれば、非常に役に立つのではないのでしょうか。

私は、英語はものすごく親切な言語だと思います。アルファベットは大文字、小文字の区別がありますが、たった26文字です。この26文字の letters を組み合わせると words (単語)ができます。この words を組み合わせると今度は sentence ができます。この sentence を作るにあたって必要な知識の一つが grammar であります。続いて sentences を組み合わせればパラグラフ(段落)ができ、パラグラフを組み合わせればエッセイができ、エッセイをチャプター(章)として組み合わせれば、一冊の book となるのです。つまり、英語で書かれたものはどれだけ膨大な情報を持っていても、どれだけボリュームがあっても、所詮26文字の組み合わせでしかないのです。

最後に少し文学部的なお話をいたしましょう。

旧約聖書 第一章第三節

“And God said, Let there be light: and there was light.”

この言葉が示唆するのは、我々が世界を認識するには言葉でもってするしかない、つまり我々が持っている言語によってその対象を表せなければ、それは存在したことにほならない、そういう意味だと思えます。

誰もが自分なりの物語を言葉で紡いで、自分の人生を送っています。そして、他者の物語とバランスを取り合いながら、自らの物語を実現するために行動を起こしています。人間が生き、動く世界とは、言葉に覆われて存在しているのです。皆さんの未来が、光あるものでありますように。

■名古屋会場 2018年6月23日(土)  
名鉄グランドホテル

## 「たすけ上手・たすけられ上手の 地域づくり、ひとづくり」

社会学部社会学科教授  
上野谷 加代子

社会福祉学とは何かといいますと、助けられ上手・たすけ上手の人づくり、社会づくりに関する学問です。でも上手に助けられるのはなかなか難しいことです。なぜ助けるよりも助けられる方が難しいのか。助けられるということは、「助けて」とSOSを出さないといけない。しかし、自尊心が傷つきましますし、みづみづともないから最後まで自覚しない。そうすると、様々なサービスがあるにも関わらず助ける側の対応が遅れてしまいます。

助けられることは非常に難しいということをまずは知っていただいて、助けられ上手な人づくりと助けられ上手な地域づくり、家庭づくり、学校づくり、社会づくり、それを作っていくことが必要です。

これは昭和22年の共同募金ポスターです。戦後の大変な状況下にあった日本では社会福祉の様々な事業に公金を使うことができなくなり、共同募金が呼びかけられました。豆腐一丁一円の時代に、今に換算すると一ヶ月で1,200〜1,500億円が集まりました。昨年は182億円に満たないくらいでしょうか。今は豊かなのに募金が集まらないのはなぜでしょうか。本当に困っているのか分からない、想像できないからです。今、一番気がかりなことは、人口が減って少子高齢化社会の中で知らんぷり社会、無関心社会が進行して、助けられ下手・助け下手の方々が多くなっていることです。このまま知らんぷりを続

けていきますと、日本の社会そのものが衰退していくと多くの学者が言っています。

私は地域福祉の方法論を専門にしています。地域福祉とは公的な政策と地域住民の助け合いの力をドッキングさせ

る、日本独特の概念です。私達の暮らしは生まれた時から死んでいくまで様々な課題を抱えています。例えば、この愛知県ですと暮らし続けるなら、それぞれの地域の経済・政治・文化・環境などの要因について、政治家も専門家も一般の市民などが一緒に、問題解決のために考えていかねばなりません。

私は常々、社会福祉とは困っている方自身が自立するために様々な制度やサービスを活用することだと言っています。昔のように、公的機関が困っている人を保護するのではなく生活者、利用者主体で自ら活用する。自立してもらったためにはどんな自立をすればいいのか。6つの自立があります。まずは労働的・経済的自立、これは就労保障です。できるだけ就労ができるよう様々な手立てをします。2つ目は精神的・文化的自立です。3つ目は身体的・健康的自立です。4つ目は社会関係の・人間関係の自立、これはコミュニケーション能力です。5つ目は生活技術的・生活管理的自立、例えば一人暮らしの学生が自炊することやお金の管理も含まれます。最後は政治的・契約的自立で、これが一番難しいです。

私がやっております地域福祉には4つの大きな要



素がありまして、1つ目は住民の福祉課題を解決することです。解決するためには制度や政策を知る必要があります。地方自治体によって保育施策が違いうように、今は自治体によって解決方法が違います。2つ目は福祉課題の解決に向けて自治的に政策を展開することです。すなわち、本日の父母懇談会の企画や運営もすべて自治的にされていますが、そういった自治的に政策を展開する力、これが地域福祉の要素です。3つ目はコミュニティを作る。お祭りからおはよう運動まで、これらがなければ福祉でまちづくりはできません。最後に、ボランティア学習や福祉学習を通して福祉を支える住民になる、仲間を創ることです。そういった4つの要素がきちんと小地域、校区にあつて初めて市民が地域福祉を創れます。「霞ヶ関」がつくる時代から、それぞれの自治体でつくる時代に変わっている、法律がどんどん変わっているのです。

助け合いとコミュニティ再生のため、新しい地域福祉の実践としては、つながりの再構築として、あらゆる参加と協働し「縁」を起こし育て伝えつなぐことが必要です。そのためにはつながりを再構築するための基盤づくりも必要になります。

私達が学生に伝えるのは、力を発揮するためには社会福祉の場合にはまず実践する。一方的に講義だけを聞く時代ではありません。社会福祉学科には、実践を重視した社会福祉実習という授業があります。実践学習とともに、時代に合った技術や方法を持たないといけません。さらに、経済政治状況や理念や思想をきちんと学ぶことが必要です。いわゆる一般教養科目はもちろん、専門分野だけ頑張ればいいというのとは時代が違います。



■広島会場 2018年7月1日(日)

広島グランドインテリジェントホテル

## 『音楽(Music)の定義を考える』

文学部美学芸術学科准教授

大愛 崇晴

私は音楽学という分野を専門としております。「音楽とは何か」をテーマに授業をしており、今回はその内容を簡単にお話しします。

本日の講演タイトルに「音楽美学入門」というサブタイトルを付けてみました。「音楽とは何か」という根源的な問いに答えようとする学問分野が、音楽美学です。音楽美学が一つの学問分野として認められたのは19世紀半ば以降のヨーロッパですが、日本では20世紀以降と、それほど昔の話ではありません。最近では、英語圏を中心に、「音楽美学」ではなく「音楽哲学」という言い方のほうが好まれています。

音楽哲学のテーマとしては、人はどのように音楽を聞いてきたか、音楽の価値付けはどのようになされるのか、音楽の本質は作品(楽譜)なのか、それとも演奏行為なのか、音楽は時代や国を超えて理解されるのか、など様々なものが考えられます。

これから、7つの音のサンプルを聴いていただきます。これは、私が音楽美学の授業の最初に学生に行っているアンケートです。音楽と思うものには○、思わないものには×、どちらとも分からないものには△を付けてもらい、その上で、そう判断した基準は何かを説明してもらいます。聴いてもらうのは、①『平家物語』の弾き語り、②比叡山延暦寺の声明、③ギリシヤ正教の祈祷(祈りの言葉)、④20世紀初頭のイタリアの前衛芸術家ルイジ・ルッソ口による音楽作品『都市の目覚め』(騒音発生装置による演奏)、⑤20世紀のアメリカを代表する作曲家ジョン・ケージの『ラジオ・

ミュージック』という実験的な作品、⑥同じくジョン・ケージの有名な作品『4分33秒』(4分33秒のあいだ何も演奏しない)、⑦小川のせせらぎです。④、⑤、⑥、⑦に○と回答した学生は少なく、音楽と判断した基準としては、音に一定の規則がある、音程とメロディーを持った音の集まり、文字通り音を楽しむことができると、という回答が見られました。

私達が使っている国語辞典数冊を見ると、いずれも音楽を「音による芸術」と定義しています。しかし、これは自明のことでしょうか。例えば、駅の発車メロディーが「音楽」であることに異論のある方はいないと思いますが、果たしてそれは「芸術」と呼べるのでしょうか。

Artという英語があります。現代ではおもに「芸術」という意味で使われますが、18世紀以前は~~三~~(技能)に近い意味で使われました。1751年にロンドンで出版された『The Art of Playing on the Violin』という本のタイトルは、「バイオリン演奏の芸術」ではなく、「バイオリン奏法」と訳すのが適切と言えます。国語辞典にあった「音による芸術」という定義は近代以降の西洋「芸術」音楽、すなわちクラシックにしか当てはまらないのではないかと、という素朴な疑問が生じてきます。

現状を見てみると、クラシック以外の音現象にも積極的に「音楽」という言葉や概念が適用されていることが分かります。例えば先ほど聴いていただいた①『平家物語』の弾き語りや、音楽大学などでは「日本音楽」、②声明は「仏教音楽」として教えられます。声明は本来法事で唱えられるものですが、昭和41年からは毎年東京国立劇場で声明の公演が行われています。また、③ギリシヤ正教の祈祷は、西洋音楽の起源の一つとして歴史的な文脈で取り上げられます。④はルッソ口自身が騒音音楽として作曲しています。そして⑤⑥のケージの作品は、彼自身のコンセプトとして不確定性の音楽、つまり楽譜に書いたものを演奏するのではなく、音の発生自体を偶然に委ねるといった考え方で作られました。⑦小川のせせらぎなどの自然音も「サウンドスケープ(音風景)」という20世紀後半に唱えられた考え方によれば、音楽の素材になりうると考えられます。音楽が西洋近代の「芸術」という括りではもはやとらえきれないことは明白です(逆の見方をすれば、「芸術」の概念が多様な広がりを見せているとも言えます)。

音楽を表わす英語の music は、ラテン語の musica から派生しています。この元をたどると、古代ギリシヤ語の「ムーシケー」に遡ることができます。「ムーシケー」とは、ムーサたちが統括するあらゆる技芸という意味の言葉です。ムーサとは、英語ではミュージス、つまりギリシヤ神話の最高神ゼウスの息子アポロンに仕える9人の女神のことを指します。彼女たちは詩や音楽、舞踏、歴史、天文学などあらゆる知的活動を司る女神です。古代ギリシヤの「ムーシケー」は、本来、詩、音楽、舞踏などが渾然一体となった事象であり、音の操作だけを差すものではありませんでした。しかしやがて、この「ムーシケー」概念は解体し、詩や舞踏、音楽が個別専門的な道を辿るようになるにつれて、「ムーシケー」は音の操作、すなわち音楽だけを名指すようになりました。この用法は古代ローマ人に継承されてラテン語の musica になり、そこから派生して英語の music になったのです。

本日の講演タイトルは『音楽(music)の定義を考える』ですが、このテーマに対して結論を出すのは難しく、いまのところは、音楽の定義を、「音を人為的に操作する営み」としておくのがせいじっぱいのところでしょう。



■東京会場 2018年7月14日(土)

同志社大学東京サテライト・キャンパス

「源氏物語と冷泉家」

文学部国文学科教授

岩坪 健

もしも冷泉家の有名なご先祖のあの一言がなければ、源氏物語はこの世に残っていないかもしれない。源氏物語は、当時の物語は社会的地位が高く、女性や子どもが読むものであって、成人男性が読むものではない、とされていたからです。ですから、多くの物語が作られては消えていきましたが、幸いなことに源氏物語は生き残りました。その一因は冷泉家のおかげということで、今日は「源氏物語と冷泉家」というタイトルでお話いたします。

一一九三年、鎌倉幕府が開かれた翌年、六百番歌合が京都で行われました。歌合では一つのお題について左方と右方から一首ずつ詠み、判者が判定します。「枯野」という歌題で次の和歌が詠まれました。

左方 見し秋を何に残さむ草の原

右方 霜枯れの野辺のあはれを見ぬ人や

ひとへに変はる野辺の景色に

秋の色には心とめけむ

勝つたのは左方です。勝つた方の「女房」とは、この歌合を企画した当時の大貴族、藤原良経です。身分の高い人の名前を書くのは恐れ多いので、「女房」と書かれています。それぞれ和歌を披露した後、互いに批判するのが習わしです。右方は「草の原、聞き良からず」と批判しました。和歌では歌言葉を使わないといけません。歌言葉は雅語、優雅な言葉です。その逆は俗語です。例えば、蛙を詠む時は「かえる」ではなく、「かわず」、鶴は「つる」ではなく、「たづ」、馬は「駒」です。

「草の原」は俗語だと難じられたのです。それに対して左方は、右方の和歌を「古めかし」と反論しました。これらの意見を踏まえて、判者(和歌のよし悪しを判定する人)は、「草の原」は「艶」(優美である)と絶賛しました。そして、「うたたある事にや。紫式部、歌よみの程よりも物かく筆は殊勝なり」(「草の原」を非難するなんて、とんでもない。紫式部は歌人のレベルはさておき、物語を書く筆力は格別だ)と高く評価しました。続いて、「そのうへ花宴の巻はことに艶なる物の花宴の巻は、「草の原」が和歌に詠みこまれ、とりわけ優雅な巻である。源氏物語を読まない歌詠みは残念なことだ」と述べました。この判者は、冷泉家の先祖にあたる藤原俊成で、当時、和歌の世界の大御所でした。藤原俊成が放ったこの一言で、源氏物語は歌人たちの必読書になり、今日まで生き残ったわけなのです。

次に冷泉家の見取図を見ていただきます。御文庫とありますのは、書庫のことです。ここには平安、鎌倉、室町時代に書かれた写本が入っています。昔はどんなに有名な研究者も一切見せてもらえず、門外不出でした。ところが、昭和五六年に冷泉家時雨亭文庫という財団法人ができて、御文庫の中の蔵書について文化庁に報告することになりました。長期の調査になるため若手が担当することになり、私の恩師が財団法人の理事をされていたことから参加させていただき、貴重な体験をいたしました。調査は十年余りかかりました。今は新御

文庫といって、江戸時代に書かれた本が入っている書庫を、若い人たちが調べています。

次の写真は、冷泉家の表門の屋根瓦の両端に置かれている亀です。瓦製の亀には五つの意味があります。一つ目は天明の大火事(一七八八年)でお屋敷が焼けてしまい、一七九〇年に地鎮祭が行われた際、亀が現れたこと。二つ目は鶴千年、亀万年というように、亀は子孫繁栄の証拠でめでたいこと。三つ目は亀は水辺の生き物なので、火事避けになること。四つ目は室町時代に本家と分家に分かれた際に、本家を上冷泉家と呼び、その「上」と亀の発音が似ていること。五つ目は冷泉家と同志社大学の住所を、玄武町と言います。玄武とは平安京の北の守護神、亀と蛇が合体した空想上の生き物です。冷泉家は京都御苑の真北にあるので、亀は玄武の象徴になります。この亀は今出川通から見られます。左右の亀の口元をよくご覧いただくと、片方は口を閉じて片方は口を開けています。ちょうど神社の狛犬と同じで、阿吽です。

次の写真は、土間を入ったところです。梁からぶら下がっている藁の束は、大きな筆のように見えます。「しゃぐま」と言います。これは祇園祭の巡行で先頭に行く、長刀鉾の長刀に付けられている魔除けだそうです。毎年祇園祭が終わったあと冷泉家に運ばれて、一年前に取り付けた物を外して新しく付け替えられます。これは冷泉家の年中行事の一つになっています。

次の図は冷泉家の家紋で、笹の上に雪が乗っています。この家紋には由来があります。藤原俊成が数え九十一歳で亡くなる少し前に、初雪が降りました。それを見たいといった俊成に、息子の定家は庭に下りて笹の葉を手折り、その笹の上に雪を乗せて見せたそうです。その逸話に基づいて家紋が作られました。





■米子会場 2018年7月21日(土)

米子ワシントンホテルプラザ

「手塚治虫マンガの魅力」

社会学部メディア学科教授

竹内 長武



社会学部メディア学科にはジャーナリズム系の学問体系とメディア文化があり、

私はメディア文化を中心に研究に取り組

んでいます。専門は子ども文化全般、例えば絵本、紙芝居、アニメーション、その中に漫画も含まれています。大学での漫画研究を不可思議に思われる方もいるかもしれませんが、マスカルチャーの中に、子どもたち、青年たちに非常に大きな影響がある文化の一つとして漫画がある、今やそういう時代です。

今年手塚治虫さんの生誕90年目ということで、様々なイベントや出版物が続いています。今日は手塚治虫さんの漫画のどういった点が新しく魅力的だったのかを少し分析しながらお話しして理解していただこうと思います。

私たちの若い頃は、漫画を読んでいるだけで変な目で見られました。「青年が電車の中で漫画を読んでいる。もう世も末だ」と新聞に載ったりしました。大変大きな時代の変化を感じます。手塚治虫さんは大阪大学を卒業、奈良県立医科大学で医学博士号を取得しました。博士号を持っているのに漫画を描いている。漫画をちよっと見直してみよう、そういう意見が出てきました。

手塚治虫さんは最初は大人向けの漫画家、お父さまの影響もあり風刺漫画家になるうと思っていたので

す。しかし、たまたまですが、子ども向けの漫画で認められ、子ども漫画を必死に真似ます。手本は海外の漫画、アメリカのデイズニーなどの影響で習得しました。漫画文化は日本独特の文化だと言われておりますが、実際は海外の刺激を受けて日本人独特の技術を加えて発展してきた文化なのです。その立役者が手塚治虫なのです。ちなみに、2020年にはオリンピックに来た人たちに日本の漫画とアニメを楽しんでもらう為、政府の肝いりで東京にアニメと漫画の殿堂を作るそうです。

手塚治虫がもたらした新しい要素の一つは、表現の革新性です。戦前の漫画、先ほどの『のらくろ』では、ほとんどの構図が真正面から舞台を見ているかのような構図でした。視点の変化がない。しかし、手塚治虫さんは、読者が作中の人物の視点で見えるような、クローズアップなど、初めて漫画の中に盛んに取り入れました。読者が作品の中に入り込んで、ハラハラドキドキ体験できるようにしたのです。今では当たり前すぎて意識できなくなっていますが。

それから、内容面でも大きな変化を起しました。戦前の漫画は短いページのユーモア・滑稽物が中心でした。そこへ悲劇的な要素や差別問題、社会風刺を盛り込んだりしました。もともと、大人向けの漫画を目指していた方であり、戦争体験もなさっています。表現の幅を広げることになりました。

戦後、手塚治虫さんが町を歩いている時、進駐軍に訊もなく殴り倒された経験から、言葉が分らない、国が違うだけで心が通じ合わなくてそういう悲劇が生まれるのか、それを何とか描きたいということで描いたのが『鉄腕アトム』です。アメリカ兵と日本人を、人間とロボットの対立に置き換えています。この物語では21条のロボット法により「ロボットは海外へ行けません」「ロボットは人間と結婚できません」と決められ、人

間たちがロボットを奴隷として扱っています。手塚治虫さんは差別問題を描くと同時に、ロボット達の自立のドラマも描きました。機械人形として労働のために作られたロボットに、ある時期から家族が作られます。ロボット達が自立して、人間に刃向かって、ロボットの国・ロボタリアを作る事件も起こります。『鉄腕アトム』は、後にアニメ化されたため娯楽作品として見られますが、実際はかなり社会的な風刺あるいは差別問題を色濃く反映した物語だったと思います。

なかなか評価されませんでした。80年代後半くらいから社会風刺の要素を含んだ大人にも十分読み応えのあるものが描かれているとアピールされるようになってきました。

漫画というレベルの低い文化に見られがちですが、手塚治虫さんは漫画を非常にレベルの高いものに仕上げようと、表現面でも内容面でも努力した方だったのです。昭和30年代にはPTAや先生のもとを盛んに訪れ、「漫画は必ず芸術になるんです」と説明したそうです。笑われたそうです。

1989年に亡くなられた後、手塚治虫記念館が出来ました。その数年後には国立国会図書館が大漫画展を開きました。2001年には漫画学会ができ、漫画を研究する機運が生まれてきまして、漫画を研究する学科や学部ができ、時代は本当に変わりました。

ですから、今人気の『ワンピース』などを読んでいると、非常にダイナミックな絵柄で当たり前のように見えますが、過去を遡ると、マンガ文化は手塚治虫はじめ様々な人々が非常に試行錯誤しながら創り上げてきた文化だったのです。今の漫画は、その上に立って創作しているのです。ですから、過去の歴史が非常に大事で、こういう目でもう一度、手塚漫画を見直してほしいと、学生に資料を配って見てもらいたいと考えてもらったりしている、そんな授業をしています。

■金沢会場 2018年8月4日(土)

ANAクラウンプラザホテル金沢

「高校生たちのゆくえ」

—社会・生活意識からみた30年—

社会学部社会学科教授

尾嶋 史章

私は今年、本日の講演タイトルと同じ『高校生たちのゆくえ』という本を出版しました。

1981年、1997年、2011年と、兵庫県下の高校生3年生に対して30年にわたって行った調査を用いて、この間の高校生の意識と生活の変貌を検討したものです。10校を追跡して変化を追う「学校バネル調査」を通して、高校生に映し出された社会の変化を中心に今日はお話ししようと思います。

まず、高校卒業後の進路選択がこの30年間でどう変化したのか見ていきます。1980年前後は男子では就職と大学進学が拮抗し約4割、女子では5割近くが就職、2割強が短大・大学は1割強でした。つまり、就職か進学かという選択が基本であり、女子進学は短大が主流でした。それが2011年には男子6割、女子5割が大学へ進学しており、大学進学が現在の高校生の主要な進路となりました。

この間に進学率は大きく上昇したわけですが、国民所得や大学授業料との関係を見ていきますと、興味深いことがわかります。国民所得はバブルがはじけた頃からほぼ横ばい、リーマンショックで下がっていますが、国立大学や私立大学の授業料はずっと上がり続けています。つまり、経済状況は良くはなっていませんし、大学の授業料は上がっているのに、進学率は上昇しているという現状です。ひとつには親も含めた進学熱があるのでしょうか、少子化による人口規模の縮小やこの間の労働市場の変化(高卒労働市場の縮小)が強く関わっています。そして、不況下で大学進学を「支えた」のが、「ローン」奨学金の拡大でした。

学校生活からみた高校生の意識にはどのような変化があったのでしょうか。学校での勉強や授業に対する熱心さ・満足度、学習意欲や高校教育への肯定的意識は1981年から1997年にかけて若干高まり、2011年にはかなり高まっています。校則違反は減少傾向、無断外泊も減少し、遅刻する生徒も激減しています。加えて2011年にはこつこつ、礼儀正しく、クラスメイトと協調するのが得意な生徒が増加したことがわかります。1981年には「落ちこぼれ」問題があり校則が厳しく学校の締め付けが強かったのですが、カリキュラムや授業内容を改善したこともあって1997年には学校適応が良くなる傾向が見られます。学校生活の充実感が上昇した一方で、1990年代にはファーストフード店の全国的な普及やポケベルや携帯など携帯ツールの登場により、学校外志向(学校外の「楽しみ」の発見)が強まりました。その結果、学校外を楽しいと感じると同時に学校生活も楽しむ生活構造の多チャンネル化が生じたのです。1997年の多チャンネル化は維持したままで2011年には学校適応の劇的改善「まじめ」化の傾向が見られるようになったのです。

1997年から2011年にかけて、権威主義的な態度が強まり、性別役割分業意識も緩やかに反転し、権威やルールに同調する一種の保守化が見られたことがその背景にあります。

最後に職業希望と職業志向の変化を見ていきます。職業希望では男女共通して喫茶店・飲食店などの店主が減少し、サービス職が増加しました。また男子では管理的職業の減少、女子では事務職の減少が見られます。職業観としては独立よりは勤め、同じところへ長く勤務が増加しています。労働市場が変わってきていて、独立して自分で何かを始めることが非常に難しくなって、独立志向が低下して安定志向が強くなっているのです。

第1次調査の1981年、経済成長が続いている中の

高校生は、地位上昇を目指したり独立開業する希望を強く持っていました。一方で学校に拘束され学校を通して長期的な希望が持てない場合には、学校内での不満がたまりやすかったのではないかと思えます。第2次調査の1997年、学校で自己実現が重視されるようになり、職業希望が短期的に達成できる自己実現的な職業に変化しました。学校外に居場所がでず携帯ツールが普及し、高校生の生活構造が多チャンネル化した結果、学校内でストレスがあっても学校外で発散するようになつたのです。第3次調査の2011年、職業希望には将来に対する安定志向が映し出されるようになり、独立開業志向は衰退しました。そして、勉強・部活に熱心でまじめな高校生が誕生し、学校生活を楽しみ、幸福感を強く抱くようになったのです。

学校教育は、色々な意味で手取り足取り、多様なサービスを提供し丁寧に子どもたちに接するようになつてきています。大学も当然同じような状況にあります。生徒学生の顧客化です。結果としては、生徒・学生の満足度はかなり高い状態にあります。社会学者の古市憲寿さんが「若者の幸福化」と呼んだ背景には、大学進学率の上昇に典型的に現れる「学校化」現象があり、そこを基盤に生活する若者たちがいたわけです。

学生の間はサービスを受ける側にあり幸福な状態ですが、就職して社会に出るとサービスを提供する立場になります。現在のサービス過剰、情報過剰の世界では、受け身にならざるを得ない部分もあるかもしれませんが、これが学生たちのためになるのかどうかはわかりません。果たして今の状況でいいのか、自問しながら過ごしています。





■福岡会場 2018年9月8日(土)

JR博多シティ会議室

## 「産業関係学とはどんな学問か」

社会学部産業関係学科教授

石田 光男

同志社大学にある学科の中で、産業関係学科が何をやるのか一番分からないと言われます。産業関係を英語で表わすと、Industrial Relations となります。分かりにくいですね。分かりやすく言うと、Employment Relations、雇用関係です。今、世の中では働き方を非常に重視していますが、働き方を学問にするのが産業関係学です。

どうやったら納得して働けるのか、どれだけ働くと賃金がいくらもらえるのか、それをルールとして解明するのはなかなかやっかいな研究です。私は50年かかりました。

賃金には成果主義や年功賃金、能力給などいろいろな種類があります。成果主義の賃金はどうやってAさんに払うの？年功賃金と能力給、どこが違うの？それぞれのルールを研究していないと賃金は分かったことになりません。

では、ルールはどこにあるのか。図書館にはありません。会社のパソコンの中にあるのです。そのため、企業や労働組合とお付き合いを続けて自分を信用してもらえらるようになって、

物事を理解していきます。

日本の賃金を勉強したら、今度は外国の賃金を知りたくなり、イギリスに行きました。今ほどパソコンも発達していなかった時代、著名な会社の人事部長の名前を探り当てて、200社



近くへ手紙を出しました。せいぜい1割から返答があればいいと思っていたところ、ほとんど毎日電話がかかってきました。英会話ができなくても、適当に相槌を打っておいてとにかく会いに行きました。100社近く訪問しました。そして「賃金表を見せてください」。当時のイギリスはオープンですぐに出してくれました。たまたまお手元にはジャガーの賃金表が出ていますが、イギリスの賃金表は分かりやすい。

日本人なら、現場の労働者の等級が5段階に分かれている場合、5等級から入って少し慣れてくると4等級に上がって、だんだん1等級に近付いていけると考えるでしょう。しかしジャガーではそれはあり得ません。1等級になるには、16歳から20歳の間に徒弟訓練を受けていないと無理です。22歳になって2等級から1等級になりたいと言っても失格です。日本の自動車会社と何が違うのか。日本は、一人ひとりを綿密に評価して、それぞれの昇給額を変えているということなんです。イギリスの労働者には人事考課はありませんでした。だからイギリスの方法は私にとって非常に新鮮です」とジャガーの労務担当の役員に言ったところ、「日本は組み立てラインです」と仕事をしている。みんな同じ仕事なのに一人ひとり評価するのはおかしいのではないか。差をつけるのは差別だ」と議論になりました。いい調査というのは、本当に本格的な議論を呼び込みます。

日本と外国の違いを知ることが産業関係学として非常に重要な学問のテーマです。しかしながら、よく分かりたいということと、分かったから日本の問題が解決するということは異なります。

資料に、日本と欧米の労働形態を比較したピラミッドが載っています。PDCAとは、Plan、Do、Check、Actionです。収益を上げるため、やってみる(Do)確認(Do)確認(Check)行動(Action)Planを

達成する、このPDCAをぐるぐる回すことが経営です。日本の企業ではPDCAを一般社員にまで下ろします。つまり、先ほどの話ですとラインで働く人も目標が与えられているのです。この点、欧米では、PDCAは管理職までしか下りてきません。一般社員以下は決められた仕事を淡々とするのです。決められた仕事の中で、どうやって問題を解決していくのかというと、それぞれのスペシャリストが介入します。かつての大量生産時代には、欧米では労働者は静かに黙々と働く職場を実現すること、日本では従業員全員が労働時間内に生き生きと働いてくれるための動機付けを雇用問題の最大の課題としていました。

さて、通信革命が進み大量生産が勝負でなくなつた今、働き方改革が問題になっています。日本はPDCAに基づいて働いています。その中にはパート社員もいます。スーパーのベテランのパート社員は売り上げ目標を持っています。店舗の業績の進捗状況に関わっており、グレードの違いはあっても正規、非正規というほどの仕事内容の差はないだろうと思います。働き方改革もこの点に触れておりガイドラインが示されました。正規、非正規の識別をどうするのか、また正規の中で女性の進出が顕著な時代、転勤や長時間労働をどうするのか、など、これらを実務的にどう展開していくのかは、日本の雇用改革の最大の柱ではないかと思えます。

グローバル化志向が強まっている一方で内向き志向も強まっています。ずっと実家にいたい男性もたくさんいます。そうなってくると、男女問わず働き方の選択肢は働く側にあるのではないか。それがきちんと選べる雇用制度にしなければいけないと思います。そのような雇用制度を作れるかどうかは産業関係論にとって非常に大きな課題の一つだと私は思っています。